
東京経済大学

地域連携センター

TKU Center for Regional Collaboration

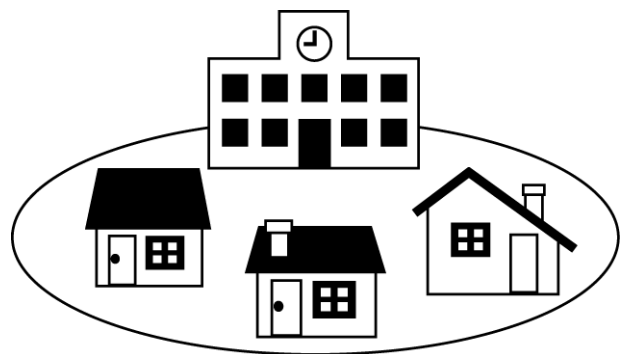
2015年度 年次報告書

C o n t e n s

はじめに

地域連携センター 2015年度 年次報告書の発行にあたって

- I. 行事カレンダー (2015.4～2016.3)
- II. 地域連携センター紹介
- III. 地域連携 (東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会)
- IV. 産学連携 (多摩信用金庫、西武信用金庫)
- V. 学生活動
- VI. 地域の行事(ご参考)



はじめに

東京経済大学地域連携センター (TKU Center for Regional Collaboration :CRC) は、学生や教職員の地域連携および地域貢献活動を促進し、「グローバル」な視点から地域社会や産業界の課題に応え、その発展に寄与することをめざして2015年度より本格稼働しました。地域社会のニーズを受け取る対外的な窓口として、また情報発信拠点として1号館2階に専用オフィスを開設し、昨年11月より専任職員を配置しています。

当センターを開設する前史として、本学は2004年10月、国分寺市および国分寺市商工会の三者で地域活性化を目的に相互に協力・連携する協定（東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会）を締結し、これまでまちづくりにかかわる共同研究、シンポジウムなどのイベント開催、そして地域と協働した授業運営などに取り組んできた経緯があります。この10年余の間に多くの学生が地域参加を通じて学び、地元の商工業者や行政と膝突き合わせて議論する場などに参加させてもらうなかで鍛えられてきたといえます。

こうした取り組みを基礎として、地域や産業界と大学とをより大きなパイプでつなぐ橋渡し役として、また、より一層大学として社会への貢献を推し進めるために、あらたに地域連携センターが発足することになりました。これまで以上に社会のニーズに応え、また地域との接点を重視してアカデミックな教育環境のチャンネルを増やし、より多くの学生らが地域に飛び込んでいくことを後押しできるよう努力していきたいと思います。

2016年3月

地域連携センター運営委員長

尾崎 寛直（経済学部准教授）

I.行事カレンダー

2015. 4. 8	西武信用金庫と包括連携協定
2015. 4. 22	第 6 回 史跡周辺おもてなし事業実行委員会 開催
2015. 4. 27	第 20 回 地域連携センター 運営委員会 開催
2015. 5. 29	第 14 回 東京経済大学・国分寺地域連携推進協議会 開催
2015. 6. 29	第 19 回 地域総合学習委員会 開催
2015. 7. 29	第 22 回 国分寺地域インターンシップ・学生地域参加実施委員会 開催
2015. 9. 23	障害者スポーツフェスタ開催
2015. 11	地域連携センターオープン
2015. 11. 20	第 3 回 地域連携センター運営委員会 開催
2015. 11. 22～23	国分寺ブックタウンフェスティバル開催
2015. 11. 25～29	「国分寺の地域と交通」をテーマにした展示会開催
2015. 12. 2	「国分寺物語」シンポジウム 開催
2016. 2. 4	第 20 回 国分寺地域総合学習委員会 開催
2016. 2. 26	第 3 回 東京経済大学・多摩信用金庫 共同シンポジウム 開催
2016. 3. 11	第 4 回 地域連携センター運営委員会 開催
2016. 3. 18	第 23 回 国分寺地域インターンシップ・学生地域参加実施委員会 開催

II.地域連携センター紹介

地域連携センター（TKU Center for Regional Collaboration）は 2015 年 11 月から窓口業務をスタートしました。常駐職員 2 名体制で、外部機関等及び本学教職員・学生からの情報収集ならびに双方への情報発信、シンポジウム・フォーラム・研究会などの準備・運営、本学教職員・学生の地域貢献・交流活動への支援を行います。1 号館 2 階にあり、本学教職員・学生が学外関係者とのミーティングなどに使用することもできます。

(1) 室内写真

【センター入り口】



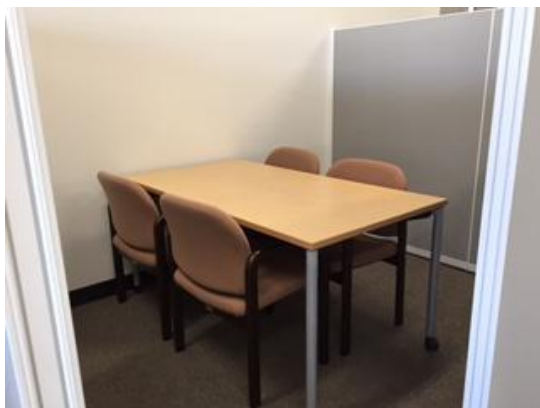
地域のイベント情報、ボランティア情報を発信しています。また皆様からの地域の情報もお待ちしております。
お気軽にお越しください

【室内スペース大】



地域連携に関するミーティング等で使うことができます。

【室内スペース小】



PC や地域連携に関する書籍などを用意してあります。



(2) 2016年度の事業計画

1. これまでの事業の経緯と概要

東京経済大学地域連携センター（TKU-CRC、以下センター）は、2015年11月から専任職員1名の配置がなされ、さらに2016年1月より臨時職員1名を採用し、本格的に業務遂行を担える体制が一定程度整った。それをふまえ、地域連携センターの利用規程についても整備できた。

この間、センターとしては、以下のような業務を実施してきている。

①本学ホームページ上の専用ページにおいてこれまでの情報を整理しながら外部への発信を行ってきたほか、外部からのボランティアや連携事業等の情報のインテークを行い、サイボウズ（教職員対象）及びポータル（学生対象）、掲示板を利用した学内への情報発信も行ってきた。これにより、学内の教職員・学生が外部との接点を持ちやすくなり、学外との連携による社会貢献の機会が増えてくることが期待される。

②それらを制度的に後押しするため、従来の地域連携行事予算を拡充した「国分寺周辺地域活動費」により、多摩地域全般に適用範囲を広げて助成対象を増やしてきた。また、次年度から国分寺市との「地域学生参加委員会」所管の学生地域参加奨励制度の補助金を地域連携センター運営委員会に移管するための作業を進めている。

③地域連携センターのシンポジウム開催としては、包括連携協定を締結した多摩信用金庫と共同して、今年度も引き続きシンポジウムを開催できた（2月26日実施）。

④センターの広報媒体としては、2013年度に作成した地域連携センターのパンフレットを大幅改訂し、同様の装丁であらたに発行することとした（年度末納品予定）。さらに、センターの年間活動報告にあたる「ニュース」の発行を年度末に向けて準備している。これをホームページ上で公開するとともに、学内の教職員・学生にも発信していく。

2. 2016年度事業計画案

以上をふまえて、2016年度の事業の柱としては、①センターの窓口事業および情報発信事業の確立、②産学連携による交流活動の促進、③地域のニーズに応える協働事業の拡大、が挙げられる。具体的な事業内容は以下の通りである。

(1) センターの窓口事業および情報発信事業の確立

懸案であったセンターの専用窓口業務が2015年11月から稼働し、それに合わせてセンターの利用のあり方やルールの設定も行ってきた。

今後、センターでは、①大学の知的成果・活動の外部への情報発信（ホームページ、紙媒体のパンフ・ニュースの発行）とともに、②外部との窓口として学外の情報を学内に周知するインテークの業務、がまずは大きな仕事となる。

後者のインテーク業務には、外部から寄せられたボランティアの情報を学生に提供しつないでいくこと、地域や産業界からの研究協力のニーズを受け付け学内の教職員につないでいくこと、まちづくり・地域活性化等のコンテスト、イベントなどの情報を教職員に提供し参加を呼びかけること、などが挙げられる。なお、インテークの手段としては、ポータルやサイボウズなどのグループウェアによる随時の発信、情報掲示板への掲示が基本となる。2015年度から発行する「ニュース」においても伝えていく。

(2) 産学連携による交流事業の促進

この点では多摩信用金庫（2004年10月27日）および西武信用金庫（2015年4月8日）との相互連携協定締結をテコに、地域や企業のニーズと研究シーズを結びつけたり、地域活性化のシーズを開拓するなどの産官学の連携を進めていくことが重要である。学生のインターンシップ受け入れや就職先の拡大、地域の課題解決に関与できるPBL型の教育の実施なども期待できるだろう。

2015年度も複数のゼミ・教員がさまざまな企業・法人とのコラボレーション活動や共同研究等に取り組んだ。これらの成果を産学連携、社会貢献の観点からより一層明確に打ち出し、本学の取り組みを内外に広めることが求められる。こうした連携事業のノウハウを多くの教員に伝えることや、きっかけを提供することも重要である。その点では、そうした産学連携・地域貢献型の研究等に対して、他大学でも行われているように、一定額の経費補助・助成金制度を設けることも今後考えられてよい。

また、学生の社会貢献・地域参加を促進するために、上述のように従来の助成金制度をセンターに移管してより機動的に運用できるように工夫する。

(3) 地域のニーズに応える協働事業の拡大

前年度から、「国分寺周辺地域活動費」を創設し、多摩地域全体を対象とし、さらに部活動・サークル等の地域貢献活動も支援することができるよう申請条件の緩和も行ってきた（ただし申請者は本学教職員であることが条件）。2015年度には初めて本学職員が代表となる地域協働プロジェクトにも助成を行った。これらの成果は、助成受給者からの報告を受けて、センターの年次報告として公表するほか、有望な事業については次年度のセンター主催のシンポジウムなどにつなげていくことも考えられてよい。

(4) 成果の公表

センターによる産学連携、社会貢献の成果報告、あるいは上述の各教員・学生らによる成果を広報する意味でも、年に1~2回はセンター主催のシンポジウムの開催を考える。

また、センターのインテーク業務や情報発信業務が確立してきたことを受けて、今後はセンターの活動報告にあたる「ニュース」の発行を継続的に行っていくことが必要である。加えて、教員らの地域貢献・産学連携に関する研究成果も、センターの発行する報告書の形式で発表していくことが一層進められてよい。

(5) その他

以上のような活動のなかでとりわけ(2)、(3)の事業を行っていくにあたり、現在の本学教職員の任意の協力を頼るだけでは自ずと限界がある。本人の研究はもちろんゼミの活動に上記の事業を位置づけていくのは現在担当している教員にとってもかなりの負担をとまなうものとなっている。今後、こうした教員を増やしていくのは容易ではない。そこで、こうした産学連携・地域連携の授業運営を専門的に担っていく教員を確保することも大きな課題となる。現在、大学執行部で検討中の「特命教員」のような制度により、専任教員としては確保しづらいPBL科目を担当できる教育専門の教員を採用することも検討に入れるべきであろう。PBL科目については、文科省も推奨してきているように、高校生の段階から実践的な問題解決型の教育に触れる機会が増えつつある。ところが、本学にはそうした科目といえる科目は「学生の地域貢献」の授業のみであり、

今後もすぐに専任教員が担当コマを増やして実施するような状況にはない（「学生の地域貢献」そのものも担当できる教員が少なく、現に今年度は休講とせざるを得なかった）。そうした科目などを専門的に担える教員が増えれば、安定的に運営でき、かつ多くの学生がPBL科目により実践的な学びの機会を得られる機会が増大する。これにより社会人基礎力の向上も期待される。次年度はこれらの人的確保についても検討すべき時期に来ている。

最後に、経営的観点からは、文科省の私立大学等改革総合支援事業の特定補助金のタイプ2（地域発展）、タイプ3（産業界・他大学等との連携）に掲げられた項目を意識しながら、これらの要素をひとつ一つ充足させていく努力も必要となる。

(3) 利用状況

教職員、ゼミ生、落語研究会、ボランティアサークル「Clover」、多摩信用金庫、西武信用金庫、富士ゼロックス、ネットワーク多摩、国分寺市商工会、さいたま市役所、などの方々に打ち合わせやシンポジウムの準備などでご利用いただきました。

(4)2016年度パンフレット作成

内容も新たに、2016年度版のパンフレットを作成しました。



(5)情報発信

- 2015/11/22～23 開催 国分寺市民の文化祭「ぶんぶんウォーク」のご案内
- 2016/2/21 開催 国分寺社協主催 「田原総一郎と国分寺の未来を語るⅡ」のご案内
- 2016/2/26 開催 第3回 東京経済大学・多摩信用金庫 地域活性化シンポジウムのご案内
- センター入り口の掲示版、パンフレットスタンドなどで地域のイベント情報やボランティア情報を掲示している。

Ⅲ. 地域連携

(1) 地域連携センター運営委員会 平成 27(2015)年度開催状況

会議	開催日時・場所	協議内容等
第 3 回	平成 27 年 11 月 20 日(金) 東京経済大学 地域連携センター	【審議事項】 ○ 2016 年度事業計画(案)について ○ 2016 年度予算要求(案)について ○ 地域連携センター使用に関する内規(案)について 【報告事項】 ○ 各委員からの報告 ○ 史跡周辺おもてなし事業について ○ 地域インターンシップ成果報告会について
第 4 回	平成 28 年 3 月 11 日(金) 東京経済大学 地域連携センター	【審議事項】 ○ 2016 年度事業計画について ○ 2016 年度学生地域参加奨励制度について ○ その他 【報告事項】 ○ 2016 年度予算について ○ 西武信用金庫との連携について ○ 各委員報告 ○ その他

(2) 「国分寺周辺地域活動費」活動報告



コミュニティバスは地球を救う 経営学部 青木 亮

開催期間：2015 年 11 月 25 日～29 日

参加人数：本学学生・教職員 23 人、一般市民 187 人

「コミュニティバスは地域を救う」をテーマにゼミ展示会を実施した。展示会では国分寺市のコミュニティバス「ぶんバス」は平成 14 年の日吉町ルート、翌年の東元町ルートに始まり、現在 5 ルートが運行されている。低廉な運賃で、乗り降りし易い小型車量を利用して、住宅地の中やしないに点在する公共施設を結ぶ「ぶんバス」は、市民にとり便利な交通手段であり、民間の路線バスがカバーしていない交通九泊地域の交通弱者の足を担う重要な交通手段である。一方、民間バスとの競合や収支の問題、狭隘な道路事情など、課題も抱えています。来場者からは、

- ・町おこしに役立つと思う。
- ・近隣のバスとの比較やルート別の収支のグラフ化などがあり、わかりやすい。

- ・普段利用しているだけではわからない現在の状況などがわかり、興味深かった。
- ・収支等気になっていたのも、勉強になった。
- ・コンパクトにまとめてあり、よかった。
- ・青木ゼミが具体的にどのような研究をしているのかわかった。
- ・必要性を痛感。
- ・身近なテーマでわかりやすい。
- ・金額が一定ということが素晴らしいと思った。
- ・ぜひぶんバスに乗ってみたい。

などの意見をアンケートでいただいております、「ぶんバス」や地域交通に関する市民の興味や理解を深めることに、成果が挙げられたと考える。

また、これまでの活動が評価され、2016年5月に開催予定の本多公民館新緑祭りで、同様の展示を行うことを、公民館より依頼されており、その意味でも一定の評価をいただいていると考える。





多摩地区における障害者スポーツフェスタの開催 経済学部 尾崎 寛直

開催期間：2015年9月30日～2016年1月末日

参加人数：本学学生・教職員14人、一般市民 各回約20人＋支援員数名

2020年東京パラリンピックを目標にして、障害のある方々が気軽にスポーツを楽しめ、スポーツを通じて社会参加と生きがいを得られるような環境づくりを進めるためのイベントづくりを目標に活動してきた。

障害者のスポーツといっても、パラリンピックに出場するアスリートのレベルから、日中の余暇活動の一環あるいはリハビリテーションの目的で行うスポーツまで技能のレベルはさまざまである。今回の事業計画では、その焦点をどこに合わせるかで若干混乱があった。学生も当初、障害者アスリートの大会（国立駒沢オリンピック公園陸上競技場にて開催）の視察などを重ねてきたが、結果的には地元の障害のある方々の状況を考えると、そこまでのレベルに高めるのを一足飛びに求めることは難しいとの判断に至った。

そこで、2015年度はまず、地元の障害者センターに利用者らが集う運動会に学生がボランティアとして運営に参加し、屋内・屋外における種々の協議の進行をサポートしながら障害のある人たちのスポーツに対するニーズや技能を学んだ。

それらの基礎的な作業をふまえ、学生独自のアイデアとして、重度の障害のある方々でも参加できる「サッカー」イベントを開催するため、ゲームメイクとルール作りにかかわり、学生が独自にゲームの内容を考案した。誰でも理解できるようにルールなどをシンプルにしつつも、「競技性」を感じてゲームで勝ち負けを楽しめるような工夫を施している。この独自の「サッカー」イベントを複数回開催した。参加は各回10～20名である。

この企画は今後も対応が可能で、地域のより大人数の障害のある方々を招いて、スポーツイベントとして運営できるのではないかと考えている。今年はその第一歩を創ることができた。

これらの成果を受けて、次年度からは室内競技・室外競技それぞれにおいて、この「サッカー」に限らずどんな障害を持っていても楽しめるスポーツとその競技大会を作って行きたいと考えている。



11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

楽曲演奏に基づく、特別養護老人ホーム利用者とゼミ生の

定期的な社会的交流プログラム

現代法学部 西下 彰俊

開催期間：2015年9月16日～2月5日

参加人数：本学学生・教職員：100人 一般市民：160人

合計4回にわたり（2015年9月16日と11月2日、2016年1月15日と2月5日）、国分寺並木町3-12-2にある社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホーム 高齢者総合施設『ミンナ』の1階フロアにて、音楽ボランティアを実践した。なお、7月には、ゼミ生の楽器演奏者2名とともに、事前にミンナにうかがい打ち合わせを行った。

ゼミとしては、東日本大震災の翌年から4年間、宮城県仙台市内、岩手県盛町内で、環境整備型ボランティア活動、コミュニケーション型ボランティア活動を行ってきたが、音楽ボランティアは初めての経験であった。ゼミとしてはチャレンジングな企画であった。7月に施設長との事前打ち合わせを踏まえて、ゼミ生のギター演奏者、キーボード演奏者3名と話し合い、楽曲選定を行い8曲を選んだ。

ゼミ生を5つのグループに分け、担当楽曲の際には中央で歌ってもらい、それ以外の場面では、参加している高齢者の皆様に「寄り添って」カスタネットを打ったり、歌詞カードを一緒に見ながら合唱したりした。

同じ高齢者福祉施設において、繰り返し音楽ボランティアを行った点は効果的であったと判断する。2回目以降、利用者様とゼミ生のコミュニケーションのペアが数多く誕生しており、要介護5の皆様にも言葉を越えた「人と人の交流」を実践できたように感じられた。定期的に音楽ボランティア活動をすることで「利用者様からの自発的行動」が生まれたことが当企画にとって象徴的な出来事であり、交流の効果があったと判断している。最初に決めた8曲以外に毎回「楽曲のリクエスト」をいただいたことは、今回の企画の大きな目的でもあり、社会的交流の実りでもあった。

本企画は、楽曲演奏に基づく音楽療法を意識した音楽ボランティアであるが、今年度はトライアルの段階であるので、音楽療法士と連携することは断念し、ゼミ生達と高齢者介護施設利用者様の定期的な交流を通じて、高齢者の皆様とゼミ生がともに刺激を請合うことを目的とし、十分に果たせたと思う。



「国分寺ブックタウンプロジェクト」と本学学生・教職員の協働による
「国分寺ブックマップ」の作成と「国分寺ブックフェスティバル」の開催
学生支援部 学習支援課 田中 理沙

開催期間：2015年11月22日～11月23日

参加人数：本学学生・教職員100人、一般市民160人

本企画では、①本学学生・教職員と地域住民との交流促進、②本学学生への学外での学習機会の提供、③市民への知識の還元、④本学の知名度向上などを目指して、「国分寺ブックタウンプロジェクト」の「国分寺ブックフェスティバル」への参加や「国分寺ブックマップ」の作成等の活動を行った。

11月22日（日）～23日（月・祝）に開催された国分寺市内の文化祭「ぶんぶんウォーク」において、本を介した市民交流イベント「国分寺ブックタウンフェスティバル」が開催され、参加者が一文ずつ物語を紡いでいく「みんなでつくる物語」という企画では、本学学生・教職員の参加に加え、本学図書館長の大岡玲教授からも作品の講評もいただいた。会場には本学の「大学案内」や「TKU LIBRARY NEWS」の配布コーナーも設けていただき、また、立川経済新聞でも紹介していただいたことから、一定の広報効果があったものと見込まれる。

また、「国分寺ブックタウンフェスティバル」の企画の一環として、本学学園祭「葵祭」期間中に、桜井哲夫教授と大岡玲教授による「図書館講演会」を開催していただき、両教授の著書や昭和53年の本学卒業アルバムに掲載されている当時の国分寺駅前の手書きマップの展示コーナーを設置した。30数年前の国分寺のマップを公開したことは、地元の方々にも当時の国分寺を懐かしんでいただき好評をいただくのみならず、その後の国分寺のマップ作りにも役立てられた。

フェスティバル終了後から2016年2月末日にかけては、今後、中央線沿線の古書店や各地で開催される一箱古本市などで配布し、「本のまち・国分寺」への来訪者を募るための広報ツールとして活用する予定である。



第3回 東京経済大学・多摩信用金庫 地域活性化シンポジウム

経営学部 山本 聡

開催日：2016年2月26日

参加人数：本学学生・教職員100人、一般市民160人

本企画は多摩信用金庫と連携し、2016年2月26日にE101教室で開催した。企画概要は以下の通りである。

第3回 東京経済大学・多摩信用金庫 地域活性化シンポジウム

～多摩のインバウンド戦略と地域資源活用～

日時：平成28年2月26日13:30～17:00

会場：東京経済大学 国分寺キャンパス 5号館E101教室

開会の挨拶 多摩信用金庫 価値創造事業部 部長 長島 剛

基調講演「訪日客2.0」世界のFITを呼ぶための情報発信

株式会社シーポイント 代表取締役 野澤 浩樹氏

第一部 多摩地域での取り組み

天空芸者宴（ナイト）の取り組みについて

御岳山観光協会 会長 馬場 喜彦氏

インバウンドの取り組みについて～外国人観光客受入れ整備環境～

一般社団法人 武蔵野市観光機構 事務局長 武藤 毅氏

富士ゼロックスにおけるインバウンド対応と多摩地域へのお役立ち

富士ゼロックス株式会社 プロダクションサービス営業本部

マーケティング部 部長 杉田 晴紀氏

第二部 聴衆参加型パネルディスカッション（コーディネーター 山本 聡）

閉会の挨拶 東京経済大学 経営学部 学部長 岸 志津江

本シンポジウムは近隣自治体・商工会の担当者、JR 東日本などの大企業、中小企業が多数参画した。これは東経大のこれまでのイベントでも、稀有な実績だといえる。聴衆アンケートの結果も良好で、多摩信用金庫からは第二弾の企画を打診されている（実施未定）。また、本学 website だけでなく、地域の各種 website でも本学名前ともに取り上げられ、十分な効果を挙げたと考えられる。



(3) 平成 27(2015)年度 東京経済大学・国分寺地域連携協議会 事業報告

1. 協議会運営委員会

(1)平成 27(2015)年度開催

会議	開催日時・場所	協議内容等
第 20 回	平成 27 年 4 月 27 日 東京経済大学	○委員交代と委員会の構成について ○専門委員会の事業報告について ○専門委員会の平成 27 年度事業計画案について ○協議会（第 14 回）の開催について ○その他

2. 国分寺地域産業研究委員会

(1)平成 27(2015)年度開催

会議	開催日時・場所	協議内容等
	平成 27 年 7 月 29 日 株式会社エクシード会議室	○「ランナー集まるまち」づくりと地域活性化～Run-Koku (ランコク)の可能性 ラントリップ代表大森英一郎氏の講演後、質疑応答を行 い、参加者からの要望に対して具体化に向けた議論を行う

3. 国分寺地域インターンシップ・学生地域参加実施委員会

(1)平成 27(2015)年度開催

会議	開催日時・場所	協議内容等
第 22 回	平成 27 年 7 月 29 日 東京経済大学	○委員の変更 ○2015 年度(平成 27 年度)前期事業報告及び後期事業計画 ○学生地域参加奨励金受給者選考
第 23 回	平成 28 年 3 月 18 日 東京経済大学	○委員の変更 ○平成 27 年度事業報告 ○平成 27 年度学生地域参加奨励制度実施報告 ○平成 28 年度事業計画 ○平成 28 年度学生の社会貢献活動に対する助成金制度実施 計画

4. 国分寺地域総合学習委員会

(1)平成 27(2015)年度開催(予定)

会議	開催日時・場所	協議内容等
第 19 回	平成 27 年 6 月 29 日 東京経済大学	○ 平成 26 年度事業報告 ○ 平成 27 年度事業計画(案)について 協議・検討 ○ 第 34 回市民大学講座の充実にむけて ○ 東京経済大学・国分寺市共催事業の在り方について
第 20 回	平成 28 年 2 月 4 日 東京経済大学	○ 平成 27 年度市民大学講座について(報告) ○ 平成 28 年度事業計画(案)について

5. 史跡周辺おもてなし事業実行委員会

(1)平成 27(2015)年度開催

会議	開催日時・場所	協議内容等
第 6 回	平成 27 年 4 月 22 日 国分寺市役所	○ 平成 22～26 年度おもてなし事業決算報告について ○ 平成 27 年度おもてなし事業計画について

IV.産学連携

1. 多摩信用金庫

第 3 回目となる東京経済大学・多摩信用金庫のシンポジウムを行いました。
今回のテーマは多摩のインバウンド戦略と地域資源活用についてです。

第 3 回 東京経済大学・多摩信用金庫

地域活性化シンポジウム～多摩のインバウンド戦略と地域資源活用～

日 時：平成 28 年 2 月 26 日 13：30～17：00

会 場：東京経済大学 国分寺キャンパス 5 号館 E101 教室

2. 西武信用金庫

西武信用金庫と持続的な地域社会の発展に貢献することをめざして、包括的連携・協力に関する協定を締結する運びとなり、2015 年 4 月 8 日(水)東京経済大学国分寺キャンパスで調印式を行いました。

V. 学生活動



- 学生団体「結い〜YouI〜」がフェアトレードイベントに参加

東京経済大学の学生団体「結い〜YouI〜」が、フェアトレードに関わる情報提供・発信を目的に、2015年7月19日（日）、リビングデザインセンターOZONE（新宿パークタワー内）で開催された「エシカル&オーガニックマーケット」のブースで、コーヒーの試飲会と豆挽き体験ができる企画を行いました。



- 葵祭を前に「マナー向上キャンペーン」を実施！

東京経済大学は、2015年10月26日（月）夕方、正門前から国分寺駅までの通学路で「マナー向上キャンペーン」を実施しました。2009年度から継続して行われているこの運動は、学生のマナー向上や、通学路の交通安全を目的としており、毎年5月と10月に実施しています。当日は、学生団体の有志や教職員などが参加し、下校中の学生にマナーの向上を呼びかけました。参加者は「マナー向上キャンペーン」と書かれた横断幕や「大声での会話に注意」「横に広がらないで」といったプラカードを掲げ、自転車に乗ってスピードを出している学生には徐行を求めするなど、積極的な呼びかけを行いました。また、今週末に迫った葵祭（学園祭）に向けて「葵祭を成功させよう」と書かれた横断幕も掲げられました。この運動に参加した葵祭実行委員会の学生は「この運動を通して学生のマナー意識を向上させ、近隣住民の方に毎年、葵祭を楽しみにしてもらいたい」と語っていました。





● 東経大生が、国分寺市主催のシンポジウムにパネリストとして登壇

国分寺市主催による「国分寺市 公共施設等のこれからに関するシンポジウム」が、2015年10月31日（土）に国分寺Lホールで開催され、経営学部小木紀親ゼミが運営するウェブサイト「国分寺物語」制作チーム代表の篠崎優花さん（経営3年）が、井澤邦夫国分寺市長などとともにパネルディスカッションに臨みました。今回のシンポジウムは、専門家をはじめ、各方面の方々の意見を伺いながら、国分寺市民と一緒に公共施設等の今後の方向性について考えることを目的として行われました。



● Nipponia Nippon ×東京経済大学・小木ゼミナール

あたらしいまちおこしの息吹「国分寺物語」

ソーシャルマーケティングを学ぶ小木ゼミの学生たちが、地元国分寺の魅力を再発見してもらおうと、2013年4月にフェイスブック、7月にウェブサイト「国分寺物語 ぶんぶんぶら〜り国分寺散歩」をオープンしています。サイトでは国分寺で仕事をする人や、実際に住んでいる人、それに名所などをスポットに当て、人や場所が持つ『物語』を発信しています。さらに学生と市民、さらには市民と市民がフェイスブックを通じて交流できるようになっています。2015年12月2日（水）には「国分寺物語」シンポジウムを開催しました。





- 「多摩のまちづくりコンペティション2015」 経営学部山本聡ゼミが優秀賞、経済学部尾崎寛直ゼミが奨励賞を獲得

12月12日（土）、立川市たましんRISURUホールで「多摩のまちづくりコンペティション2015」本選が開催され、山本聡ゼミ（経営学部）地域活性化班の「TAMAのSAKEを知ろう！見よう！体感しよう！」が優秀賞を、尾崎寛直ゼミの「障害者が活躍するまちづくり 障害者のノーマライゼーションを実現する仕組みづくり」が奨励賞を受賞しました。



【山本ゼミ】



【尾崎ゼミ】



- 東経大の地元・国分寺のギャラリーで作品展開催～コミュニケーション学部「メディア制作ワークショップ」・「表現と批評」

東京経済大学コミュニケーション学部で「メディア制作ワークショップ」や「表現と批評」を履修する学生が、自作の作品展「シェイクスピアズダイアログ」を2016年1月8日（金）から13日（水）の期間、国分寺くるみギャラリーで開催しました。





- **【私たちの国分寺と東経大】桜井哲夫ゼミナールの映像作品が完成**

コミュニケーション学部の桜井哲夫ゼミナール3年生の映像作品「私たちの国分寺と東経大」が完成し、2016年1月14日（木）6号館地下スタジオで試写会が行われました。「国分寺編」は由来、湧水、お店等にスポットを当て案内、「東経大編」では歴史、施設、授業、サークル活動等を紹介しています。



- **多摩信用金庫と共同でシンポジウム開催！～多摩のインバウンド戦略と地域資源活用（学生記者レポート）**

第3回 東京経済大学・多摩信用金庫 地域活性化シンポジウム」が、2016年2月26日（金）に東京経済大学国分寺キャンパスで開催され、自治体や企業・団体の関係者、それに学生ら約60名が参加しました。

シンポジウムに先立ち、多摩信用金庫価値創造事業部の長島剛部長が登壇し「今年で東京経済大学と多摩信用金庫は、連携協力協定を締結して3年目となる。シンポジウムは年1回の大きなイベントであるので、双方向で緊張感を持ちつつ議論していきたい」と述べました。

シンポジウムは3部構成で進行し、第1部は『「訪日客2.0」世界のFITを呼ぶための情報発信』と題した基調講演、第2部は企業と団体による多摩地域での具体的な取り組みについての報告、第3部はインバウンドの取り組みを継続させる仕組みづくりについて参加者とのディスカッションが行われました。

第3部におけるパネルディスカッションでは、経営学部の山本聡准教授がコーディネーターとなり、第2部での発表者4名が登壇し、参加者と多摩地域全体での連携方法や地域資源の活用方法などについて意見を交わしました。

パネラーの1人は「資源の見直しといった地域を知ることから始め、これを継続することが重要である」と述べました。

シンポジウムの最後に、岸志津江経営学部長が「今後は、ハード面を整備するだけでなく、経験価値や地域ブランドなどといったソフト面をより充実させることが求められている。今回のシンポジウムを機に、多摩信用金庫や企業、自治体の実質的な連携を深めていってほしい」と、まとめの言葉を述べ、シンポジウムは閉会しました。



VI. 地域の行事(ご参考)

イベント・行事	実施日	場所
いずみ春の祭典	3月上旬	いずみホール
観桜・早稲田実業学校内遊歩道開放	3月下旬	早稲田実業学校
市民活動フェスティバル	4月	国分寺市
万葉花まつり	4月下旬	武蔵国分寺跡 他
こくぶんじ朝市	5月～10月	市内施設など
社協ふくしのつどい	6月	国分寺市社会福祉協議会
本多公民館新緑まつり	5月	本多公民館
ジュニア科学教室 宇宙の学校	6月～2月	市内施設など
農ウォーク	6月下旬	市内農地
はあとふるまつり	8月	恋ヶ窪商店会
夏休み子供自然教室	8月中旬	恋ヶ窪樹林地
ぶんじぞう祭り	10月	東栄会
スポレクまつり	10月中旬	市民スポーツセンターなど
にしこくんのお誕生日会	10月12日	西国分寺 LEGA コンコース
国分寺まつり	11月第1日曜	武蔵国分寺公園ほか
ぶんぶんウォーク	11月頃	武蔵国分寺公園ほか
国分寺環境まつり	12月上旬	市清掃センター



東京経済大学 地域連携センター
東京都国分寺市南町 1-7-34
[Tel:042-328-7950](tel:042-328-7950)
Fax:042-328-7949
Mail:crc@s.tku.ac.jp